昭和27年11月26日第3種郵便物認可　（日刊）©読売新聞社2016年　第22740号
THE YOMIURI SHIMBUN
讀賣新聞
2016年（平成28年）6月20日月曜日
発行所　読売新聞大阪本社　〒530-8551　大阪市北区野崎町5-9　電話(06)6361-1111(代)　www.yomiuri.co.jp

人と地球の未来のために
オルガノの水処理技術
ORGANO オルガノ
心と技で水の価値を創造する
www.organo.co.jp

■中国軍艦進入 計画的か 2
■交流戦 タカ勝率1位 21
■熊本復興へ20項目提言 30
■ダリ愛用の和傘 復元 31
◀日米野球 東大から33年ぶり 30
国際 6　家庭 小説 13
気流 8　わいず倶楽部 15
文化 9　Styleプラス 19
スポーツ 20 21 22 23
碁・将棋 24　歌壇・俳壇 26
※「見る」休みました。

参院比例選
投票先 自民35%民進12%
本社世論調査 内閣支持低下 49%

読売新聞社は17～19日、参院選公示を前に全国世論調査を実施した。参院比例選での投票先は、自民党が35%でトップを保ったが、前回調査（6月3～5日）の42%から7ポイント下落した。民進党は12%（前回11%）とほぼ横ばいで、公明党、おおさか維新の会の各7%、共産党の4%などが続いた。安倍内閣の支持率は49%で前回の53%からやや下がった。不支持率は38%（同35%）となった。

△質問と回答8面、関連記事3・4面▽

アベノミクス評価 8ポイント下落

自民党の比例選投票先の数値や内閣支持率が低下したのは、政治資金の私的流用問題で辞職する舛添要一・東京都知事を自民党が知事選で支援したことや、欧州連合（EU）からの英国離脱の懸念による最近の円高、株安などが影響したとみられる。

安倍内閣の経済政策を「評価する」とした人は36%（前回44%）に下落し、この質問を始めた2013年6月以降で最も低かった。「評価しない」は45%（同44%）。安倍内閣のもとで景気回復を「実感している」は17%で、「実感していない」が74%と依然として多数を占めている。舛添氏の辞職を「当然だ」と答えた人は84%に上り、「必要はなかった」の11%を大きく上回った。

参院選で民進、共産、社民、生活の野党4党が改選定数1の選挙区で候補者を統一したことを「評価する」は40%、「評価しない」は36%と見方が分かれた。

参院選の結果、自民党と

党首討論 スタート

岡田克也

安倍晋三

ネット党首討論で意見を述べる㊨安倍首相と㊧民進党の岡田代表（19日夜、東京都港区で）＝片岡航希撮影

首相 民共協力は「無責任」
岡田氏「政権打倒が目的」

与野党の9党首は19日、テレビやインターネットの番組にそろって出演し、22日公示、7月10日投開票の参院選に向けた初の党首討論に臨んだ。安倍首相（自民党総裁）は、民進、共産両党が選挙後の枠組みを提示していないとして「無責任だ」と批判したのに対し、政権打倒という目的に限定した協力だとする民進党の岡田代表と、あくまで連立政権を目指す共産党の志位委員長との考え方の違いが浮き彫りになった。

△関連記事2・31面▽

民進、共産両党など野党4党は、32ある改選定数1の「1人区」全てで候補者を一本化した。首相は一連の番組で、「安倍政権を倒すということで一本化しているのであれば、倒した後はどうするのか。そこから考えるのか。混乱を呼ぶだけだ」と批判した。

これに対し、岡田氏は、共産党との関係について「色々な問題を乗り越えられないからこそ、現時点では政権を共にすることはできない」と述べ、「現時点」と断ったうえで、連立を組む可能性を否定した。一方で「政権を倒すという共通目的に基づいて協力することは全くおかしくない」とも語った。

志位氏は、提唱する「国民連合政府」について、「（次期）衆院選までにきちんと前向きな結論を出す」と述べ、民進党などとの連立政権を視野に入れていることを改めて表明した。公明党の山口代表は、民進、共産両党の連携について「選挙後の責任ある姿が見えていないのに、選びようがない」と指摘した。

憲法改正について、首相は「（衆参の）憲法審査会で十分に議論されておらず、選挙で争点にするに至っていない」と語り、参院選後に国会で議論を深めるべきだとの考えを強調した。岡田氏は「首相は改憲をやりたいのに選挙に不利だから争点隠しをしている」と批判した。

参院選に望む 3
外交・安保 国際協調が軸

慶応大
細谷雄一 教授

ほそや・ゆういち　1971年生まれ。法学博士。専門は国際政治学、外交史。米プリンストン大客員研究員などを経て2010年から現職。著書に「歴史認識とは何か」など。44歳。

冷戦終結後、国際社会における日本のプレゼンス（存在）は下がり続けてきた。安倍政権の意思は、日本が国際政治・経済での主要なプレーヤーになり、アジアや国際社会で平和と安定のために貢献することだ。

安倍政権は安全保障関連法の成立に尽力したが、賛成派は安全保障政策の変化を強調し過ぎ、反対派は警戒し過ぎている。安保関連法は抑制的な内容だ。世界の主要国とは異なり、存立危機事態のような極めて例外的な状況でなければ集団的自衛権は行使できない。

安保関連法は「専守防衛」の戦後の安全保障政策の伝統を継承している。平和国家の理念を堅持し、平和的手段による紛争解決を目指し、法の支配に基づく国際秩序を維持するのが、積極的平和主義の重要な柱だ。

その中核の哲学は国際協調主義だ。日本は戦前、国際連盟から離脱し、国際社会と敵対し、国際秩序を破壊したが、今は国際協調を支える側になった。安保関連法の議論では、自衛隊の活動領域拡大ばかりが論じられ、国際協調主義を外交・安保の中軸に据える狙いが国民に十分伝わらなかった。専守防衛からの転換ではなく、戦後の平和国家としての歩みを強化するのが目的であり、高く評価できる。

アジア情勢や国際秩序は流動化し、不透明感と不確実性が増している。中国の対外行動は強硬になり、国民の間には不安が高まって

私たちの声

模擬投票に向けた打ち合わせをする「Vote at Chuo!!」のメンバー。片山さん（中央）は「1票を大切にしたい」と語る（13日、中央大多摩キャンパスで）

参院 山陰 選挙啓発チラシ

鳥取大生ら 投票率1位狙う

鳥取・島根が合区される参院選で選挙区別の投票率トップを目指そうと、鳥取大（鳥取市）の学生グループが「参院」と「山陰」をかけて「さんいん選」のタイトルをつけた啓発チラシ＝写真＝を作った。

鳥取県の人口は47都道府県で最も少なく、大手コーヒーチェーン「スターバックスコーヒー」の出店が最後になったことも話題になった。大学校舎の写真をあしらったチラシでは「投票率くらいは全国1位に！」と、あえて自虐的なフレーズを記している。

地域学部の塩沢健一准教授（総合政策）のゼミ生、前田涼太さん（20）らが作成。選挙権年齢の引き下げを受け、公示後の30日に学内に設けられる期日前投票所をPRするためだったが、鳥取市選挙管理委員会も「目を引く」と注目し、写真を鳥取砂丘に差し替えるなどし学外でも配布する計画だ。

2013年の参院選で、鳥取県の投票率は全国3位の58・88％。一方、島根県は60・89％の1位で、前田さんは「島根との合区で1位になれる可能性は高い」と、投票日を楽しみにしている。

はいつも、ぶつぶつとつぶ

と勉強しなくちゃ」。新聞

歳の投票率は31・18％。読売

66％より29％低かった。

22都府県でVoteなど38団体が参加している。

松山市選管は、地元の高校生や大学生ら約30人を、選挙啓発を担う選挙コンシェルジュ（案内人）に任命しフェイスブックやツイッターで情報を発信。1人で投票所に行くのが不安な高校生を対象に、期日前投票所へ一緒に行くイベントも企画している。

橋桁落下 地盤沈下で支柱傾き 原因

神戸の新名神 業者把握も作業続行

神戸市北区で4月、建設中の新名神高速道路の橋桁が落下して作業員2人が死亡、8人が重軽傷を負った事故で、西日本高速道路が設置した技術検討委員会は19日、橋桁を支える仮支柱が地盤沈下で傾いたことが原因だったと発表した。

施工業者は傾きを把握しながら作業を続けていたという。

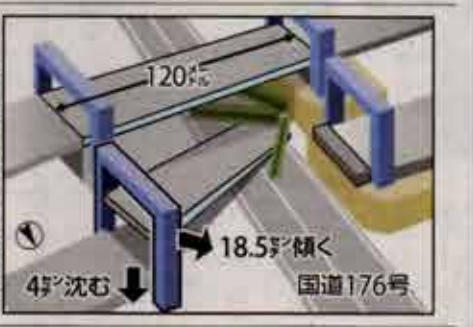
検討委によると、事故当日の4月22日朝、施工業者が橋桁の東側を支える仮支柱を調べたところ、地盤が4㌢沈下し、西側に18・5㌢傾いていることが判明した。しかし、「安全性に問題はない」と判断して作業を続行。午後4時25分頃、橋桁の西側が落下し、真下を通る国道を塞いだ。

施工業者は現場近くの地盤調査の結果を参考に作業を行っていたが、仮支柱の下の地盤の強度は調べていなかったという。

検討委は「安全性への配慮が不十分だった」と指摘。施工計画の見直しや地盤調査の徹底などの再発防止策を提言した。西日本高速道路は7月中旬までに落下した橋桁を撤去し、架設工事を再開する。

記者会見した検討委委員長の山口栄輝・九州工業大副学長は、大阪府箕面市の新名神高速道路の建設現場でも仮支柱の倒壊事故があったことに触れ、「いずれの事故も作業のヤマ場を越えた後に起きている。施工業者に気の緩みがあったのではないか」と話した。

神戸市の事故を巡っては、兵庫県警が業務上過失致死傷容疑で捜査している。



橋桁が落下した状況

コボちゃん

植田まさし　12139

大手町モール
あなたのコトバをモノマネするよ
税込6,912円
0120-76-3777
インターネット下
大手町モール 8552
検索

ダリが愛した和傘

京の老舗 復元

20世紀を代表するシュールレアリスムの芸術家、サルバドール・ダリ（1904～89年）の愛用品だった和傘の複製作業が、京都市上京区の老舗和傘店「日吉屋」で進められている＝写真、吉野拓也撮影＝。完成品は、7月1日に同市美術館で開幕する「ダリ展」（読売新聞社主催）に合わせ、来日するダリ財団関係者に渡される。

日吉屋によると、ダリの和傘は直径2.7㍍、柄の長さ1.65㍍。内側に京友禅に似た鮮やかな桜模様が描かれており、京都の業者の作とみられている。1960年前後に贈られたとみられ、和傘を差して散歩するダリの写真も残っている。

和傘は、財団が管理するスペインの「ダリ劇場美術館」が展示していたが、老朽化したため日吉屋に複製を依頼した。昨秋から始まった複製作業では、京友禅の絵付師が桜模様を精巧に再現。外側の和紙には柿渋を塗り、はっ水性を持たせた。日吉屋5代目社長の西堀耕太郎さん（41）は「和傘が両国の懸け橋になればうれしい」と話している。